

春日 教測

神戸大学大学院経済学研究科 准教授

本稿では、有料放送市場における主要なプレーヤーであるケーブルテレビ事業者と衛星放送事業者への加入要因と競争環境について「プラットフォーム競争」という視点から検討を行う。具体的には、各種行政支援政策や技術特性がそれぞれのプラットフォームへの加入に与える要因を実証的に把握することで、有料放送市場における競争状況の分析を行う。

推計の結果、以下の点が示唆された。

ケーブルテレビ事業者はインターネットサービス提供や伝送路の光化を進めるなど高付加価値化を促すことで、衛星放送事業者との競争上加入者獲得を有利に進めることが可能となっている。

行政出資比率の高い地域ではケーブルテレビ加入者も多いが、低料金で少ないチャンネルのサービスが提供されている傾向にある。

多チャンネルサービスの分野では、ケーブルテレビ事業者と衛星放送事業者は加入者獲得競争を行っている状況にある。

地上波放送のチャンネル数は有料放送市場における加入者獲得競争に大きな影響を及ぼす可能性がある。

本稿のように加入率に与える影響を把握することは、両プラットフォームによる有効な競争環境が達成されるために有効な示唆をもつものと思われる。通信と放送の融合進展などを踏まえて、同市場の競争状況を評価するためには、通信事業者などの他のプラットフォームを含めた形へと分析を拡張してゆくことが必要だと考えられる。

研究の成果

有料放送市場におけるプラットフォーム間競争

『公益事業研究』研究ノート (公益事業学会編) 第 58 巻 第 4 号 pp.63-72 2007